

## 令和7年度第11回 感染症発生動向調査協議会

令和8年2月18日

月番： 澤田 明

高橋 義人

### 1 前月の感染症発生動向について（2026年第1週～5週・1月）

#### <全数把握対象疾患>

- 一類感染症の報告はなかった。
- 結核は20例あり、毎週コンスタントに報告された（前年比：83.3%，前々年比：111.1%）。20歳以上の各年齢層で認められた（特に80歳以上の高齢者が最も多かった）。
- 腸管出血性大腸菌感染症は、5例（全てO157）報告された（前年比：250.0%）
- 四類感染症の報告は、レジオネラ症4例（前年比：100.0%，前々年比：400.0%）であった。
- 五類感染症
  - ✓ カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症2例，劇症型溶血性レンサ球菌感染症3例，後天性免疫不全症候群3例，侵襲性インフルエンザ菌感染症1例，侵襲性肺炎球菌感染症6例，破傷風1例，百日咳16例（前年比：266.7%）などの報告があった。
  - ✓ 梅毒は22例報告された（前年比：110.0%，前々年比：275.0%）。

(STI)

梅毒；患者数が昨年同時期より若干増加している。後期顕性梅毒が1例、無症候性梅毒が3例であり、18例80%が早期顕性梅毒であった。増加率はすこし収まっている。一昨年との比較では患者数は2倍を超えている。女性患者が10歳代から30歳代であるのに対して、男性患者は20歳代から60歳代までの年齢層に分布していた。

#### <定点把握対象疾患>

- 前月と比較し増加傾向にある疾患
  - ✓ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎（前月比：119.6%）----岐阜県では全国と比較すると少なめ
- 前月と比較し減少傾向にある疾患
  - ✓ インフルエンザ（前月比：58.6%，前々年比：60.2%）---前月比では減少も、2週以降は増加傾向、注意必要
  - ✓ 急性呼吸器感染症（前月比：56.9%）

(STI)

性器クラミジア感染症・性器ヘルペスウイルス感染症は昨年と同程度の同様の発生。

いずれも女性患者の方が多くなっている。

尖圭コンジローマは昨年同期より男女ともに増加。男性は年齢で分布している。

淋菌感染症の患者数は昨年と同様の傾向。男性患者は20歳代に限定している。

## 2 検討すべき課題

特にありません。

## 3 情報提供すべき事項

特にありません。

## 4 情報提供（月番委員専門分野から）

特にありません。

---

<検討結果>